



大人の知らない子ども・若者の不安

渋谷哲也
(フリーライター、中央大学非常勤講師)
@shibutetu

渋井哲也（しぶいてつや）

フリーライター

ルポライター

中央大学文学部非常勤講師

1993年3月 東洋大学法学部卒業

1993年4月 長野日報社入社。98年8月退職。

1999年4月 東洋大学大学院文学研究科教育学専攻入学。2001年3月 同修了。

近刊は、「学校が子どもを殺すとき」（論創社、2020年5月）。

著書に「アノニマス ネットを匿名で漂う人々」（情報センター出版局、2001年10月）、「チャット依存症候群」（教育史料出版会、2003年7月）、「出会い系サイトと若者たち」（洋泉社、2003年8月）、「ネット心中」（NHK出版、2004年2月）、「男女7人ネット心中 マリアはなぜ死んだのか」（紀元社、2005年1月）、「ケータイ・ネットを駆使する子ども、不安な大人」（長崎出版、2005年11月）、「ウェブ恋愛」（筑摩書房、2006年10月）、「若者たちはなぜ自殺するのか」（長崎出版、2007年4月）、「学校裏サイト 進化するネットいじめ」（晋遊舎、2008年4月）、「実録・闇サイト事件簿」（幻冬舎、2009年5月）「解決！学校クレーム」（河出書房新社、2009年6月）、「自殺を防ぐためのいくつかの手がかり」（河出書房新社、2010年11月）、「絆って言うな」（皓星社、2016年10月）、「ルポ平成ネット犯罪」（筑摩書房、2019年9月）。



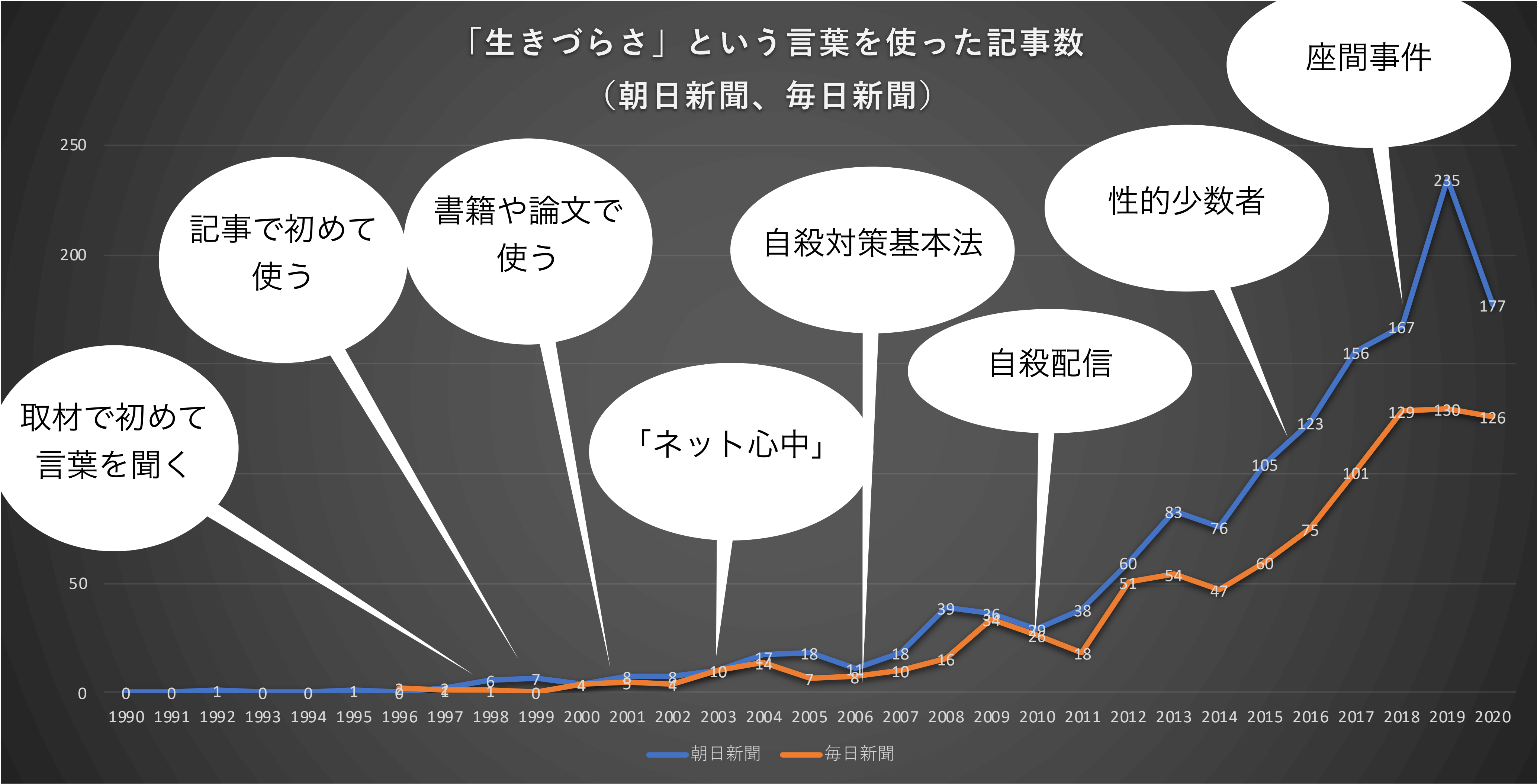
- 1、若者層を中心に抱く「生きづらさ」
- 2、「生きづらさ」の感情が行き着いた座間事件
- 3、上昇傾向が続く10代の自殺率 コロナだけじゃない
- 4、「学生・生徒等」の自殺が急上昇した
- 5、居住地と発見地の差異
- 6、自殺の理由
- 7、自殺の場所



文科省と厚労省、警察庁の連携強化

虐待死を調査する「Child Death Review」
の拡大

子ども・若者のケアと権利をベースとし
た専門的な省庁（部局）を設置する



「生きづらさ」……さまざまな悩みを感じているけれども、うまく言葉に表現できない感情。想いを言葉にすることを『カミング・アウト (coming out) = 言語化』といますが、想いを言葉に出来ずに行動に表すことを『アクティング・アウト (acting out) = 行動化』と呼びます。アクティング・アウトの中には、援助交際や家出、依存症、自傷行為、自殺未遂などが考えられます。

「生きづらさ」ってどんな感情？

死にたい
消えたい

自信がない

希望がない

どうなって
もいい

生きづらさ



見捨てら
れたくな
い

居場所がない

本当の自分じゃない

良い子でいなきゃ

座間事件の反応 (座間アンケートより)

本人たちは死にたいと思っていたのだから、結果的には死ぬという目的は果たせたわけだけど、惨すぎる自殺願望、希死念慮を否定しないで欲しい。

殺された人の代わりに死にたかった。

殺すのは良くないが結果的に死ねたのは羨ましい。

私はそうはなりたくないって思った。死ぬなら自分で死にたい

別に死にたい人だったのなら殺してもよかったんじゃないかと思った

私がかわりになれていたら、ご本人やご親族が怖い思いをしたり、悲しむ事もなかったと思った

すごい今どきの事件やと思った。死にたいんやったら一人で死ねばいいもののさ、最後まで人求めてさ寂しかったんやろうなみんな。

死にたい気持ちは分かる。実際に実行出来ていて勇気があるなと思った。

羨ましい。私が切られた時は自傷行為してるからとされたところ立件難しいまで言われたのに。

私も10人目として遺体で発見されたかった

誰かやるだろうなって思った。

羨ましい

捕まって欲しくなかった

10人目になりたかった。

どうせみんな忘れてなんの解決も対処もしないまままた同じことが起きるんだろうなと思った

死なせて欲しい

代わりになりたい

1人で死ねない奴が付け込まれた事件が起きたと思った

本望だったのか死にたくなかったのか真実が分からない。私も混ざりたかった。

羨ましい、私も殺されたかった



10代・20代女性の自殺SOSを見逃すな！

「日本の年間自殺者のピークは03年で約3万2000人。そこから減少傾向にありますが、男性が減ったのに対し、女性は横ばい状態でした。女性の自殺は数としては目立っていませんが、それがコロナ禍で表面に現れるようになったのです」(高橋研究員)

若年層の自殺の理由として、著名人の自殺報道が続いたことも指摘される。ただ、16年調査では、自殺未遂の原因で多いのは家庭問題や健康問題。19年調査では、自殺念慮(死にたい気持ち)の原因として4人に1人が「いじめ」と回答している。

「著名人が自殺をする」と若年層ほど影響があると言われているが、そのベースには自殺念慮があります。特に、いじめ被害の経験や家族内の虐待がリスクになります。調査では、家族問題を理由に未遂をしている人が多かったのですが、コロナ禍を考えると、ステイホームによって家族と一緒にいる時間が増え、逃げ場がなくなった可能性もあります」

兄からの性虐待が自殺願望の源に

10代、20代の女性を対象にSNS相談を行っているNPO法人「BONDプロジェクト」の代表・橋ジュンさん

は、「相談には「死にたい」「消えたい」という内容が以前から多い。ただ、相談をしてきた女の子たちが自殺したという情報にはなかなか接しませんが、そのベースには自殺念慮があります。特に、いじめ被害の経験や家族内の虐待がリスクになります。調査では、家族問題を理由に未遂をしている人が多かったのですが、コロナ禍を考えると、ステイホームによって家族と一緒にいる時間が増え、逃げ場がなくなった可能性もあります」

「死にたい」という気持ちに悩んでいる人は、相談には「死にたい」「消えたい」という内容が以前から多い。ただ、相談をしてきた女の子たちが自殺したという情報にはなかなか接しませんが、そのベースには自殺念慮があります。特に、いじめ被害の経験や家族内の虐待がリスクになります。調査では、家族問題を理由に未遂をしている人が多かったのですが、コロナ禍を考えると、ステイホームによって家族と一緒にいる時間が増え、逃げ場がなくなった可能性もあります」



コロナ禍でODなどの自傷行為が悪化した人も

「8月下旬に退院したあとも死にたくなり、9月は6回、10月は4回、ODをしました。アムカやババ活は、死にたい気持ちでまぎらわせたためにしています」(美咲さん)

こうした状況にもかかわらず、心配された実感はない。美咲さんは小学校低学年のころから中学2年まで、兄からの性的虐待を受け続けた。これが自殺願望の源だ。

「兄から、誰にも言うな」と言われて従っていました。中1のときに母親に見つかったんですが、兄はやめず、中2のときに担任に相談でき、児童相談所に保護されました」

その後、兄と一緒に暮らすことはなくなったが、自傷行為が今でもやめられない。ODのほか、腕をカッターで切るアムカ(アムカ)を繰り返す。さらには、出会いアプリで不特定の男性と会い、ババ活をする。

「8月下旬に退院したあとも死にたくなり、9月は6回、10月は4回、ODをしました。アムカやババ活は、死にたい気持ちでまぎらわせたためにしています」(美咲さん)



高橋義明研究員



美咲さんがODを繰り返しても母親は関心を示さない

「死にたい気持ち」を「リスカ」で解消

高校生の亜実さん(仮名)16)の家族は、ちょっとしたことでケンカが起きる。先日洗濯物を片づけるのが遅れたとき、母親が「そこに座れ」と言い、叱責し、ドライヤーを投げつけた。母親の怒りがおさまらないところへ父親も加わり、殴られることもあった。

たまたま、母親が「そこに座れ」と言い、叱責し、ドライヤーを投げつけた。母親の怒りがおさまらないところへ父親も加わり、殴られることもあった。

「死にたい気持ち」を「リスカ」で解消

高校生の亜実さん(仮名)16)の家族は、ちょっとしたことでケンカが起きる。先日洗濯物を片づけるのが遅れたとき、母親が「そこに座れ」と言い、叱責し、ドライヤーを投げつけた。母親の怒りがおさまらないところへ父親も加わり、殴られることもあった。

「死にたい気持ち」を「リスカ」で解消

高校生の亜実さん(仮名)16)の家族は、ちょっとしたことでケンカが起きる。先日洗濯物を片づけるのが遅れたとき、母親が「そこに座れ」と言い、叱責し、ドライヤーを投げつけた。母親の怒りがおさまらないところへ父親も加わり、殴られることもあった。



外出自粛で家族からの逃げ場を失った女性たちは少なくない

長引くコロナ禍の下、自殺に追い込まれる人たちがあとを絶たない。なかでも「異常事態」と呼べるほど急増しているのが、10代~20代の若い女性。彼女たちに今、何が起きているのか、もうひとつの「命の危機」に迫る!

10代・20代女性の自殺SOSを見逃すな!

10月だけで「コロナ」と並ぶ死者数!

「死にたい」という気持ちに悩んでいる人は、相談には「死にたい」「消えたい」という内容が以前から多い。ただ、相談をしてきた女の子たちが自殺したという情報にはなかなか接しませんが、そのベースには自殺念慮があります。特に、いじめ被害の経験や家族内の虐待がリスクになります。調査では、家族問題を理由に未遂をしている人が多かったのですが、コロナ禍を考えると、ステイホームによって家族と一緒にいる時間が増え、逃げ場がなくなった可能性もあります」

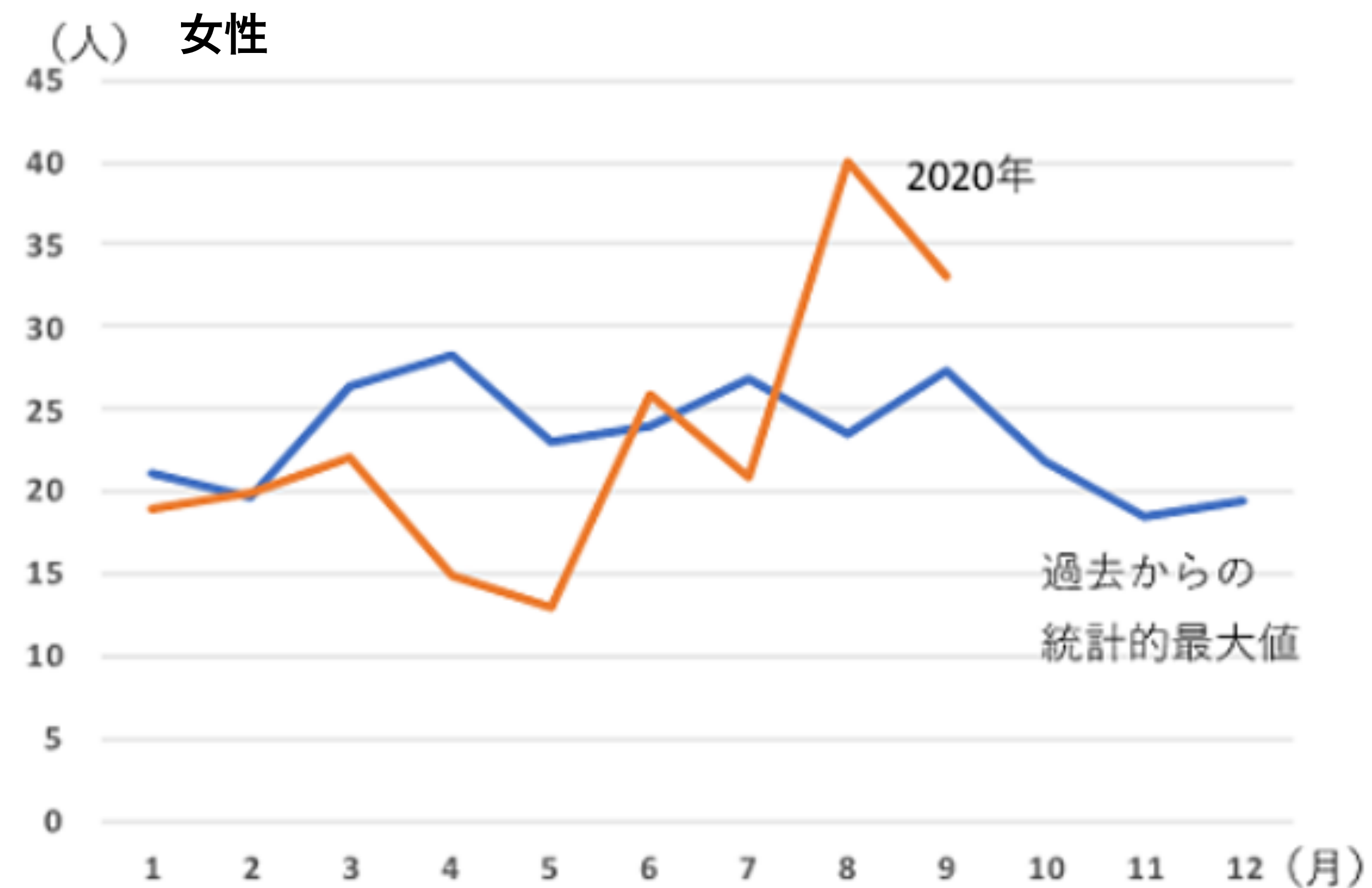
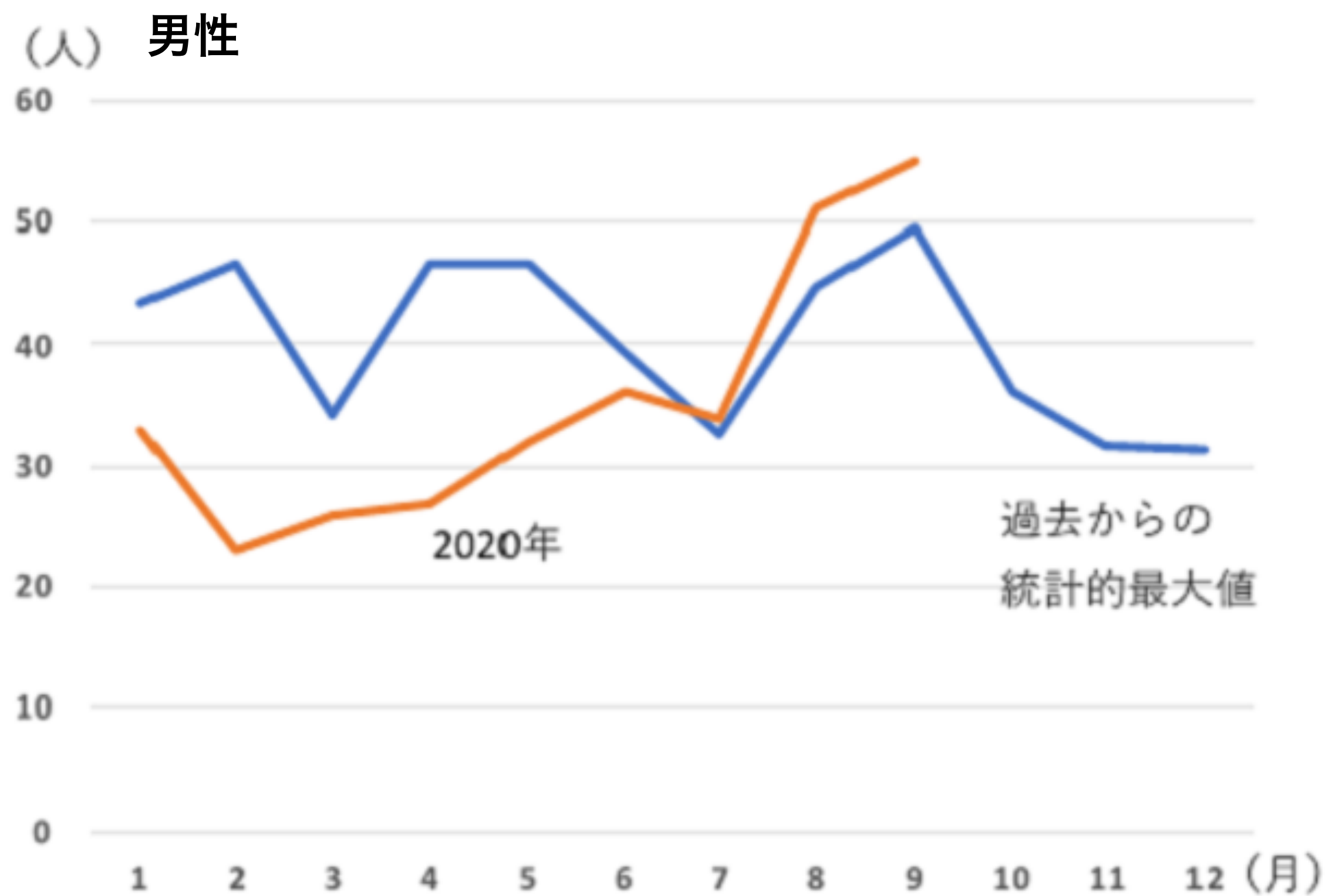
「死にたい」という気持ちに悩んでいる人は、相談には「死にたい」「消えたい」という内容が以前から多い。ただ、相談をしてきた女の子たちが自殺したという情報にはなかなか接しませんが、そのベースには自殺念慮があります。特に、いじめ被害の経験や家族内の虐待がリスクになります。調査では、家族問題を理由に未遂をしている人が多かったのですが、コロナ禍を考えると、ステイホームによって家族と一緒にいる時間が増え、逃げ場がなくなった可能性もあります」

「死にたい」という気持ちに悩んでいる人は、相談には「死にたい」「消えたい」という内容が以前から多い。ただ、相談をしてきた女の子たちが自殺したという情報にはなかなか接しませんが、そのベースには自殺念慮があります。特に、いじめ被害の経験や家族内の虐待がリスクになります。調査では、家族問題を理由に未遂をしている人が多かったのですが、コロナ禍を考えると、ステイホームによって家族と一緒にいる時間が増え、逃げ場がなくなった可能性もあります」

「死にたい」という気持ちに悩んでいる人は、相談には「死にたい」「消えたい」という内容が以前から多い。ただ、相談をしてきた女の子たちが自殺したという情報にはなかなか接しませんが、そのベースには自殺念慮があります。特に、いじめ被害の経験や家族内の虐待がリスクになります。調査では、家族問題を理由に未遂をしている人が多かったのですが、コロナ禍を考えると、ステイホームによって家族と一緒にいる時間が増え、逃げ場がなくなった可能性もあります」

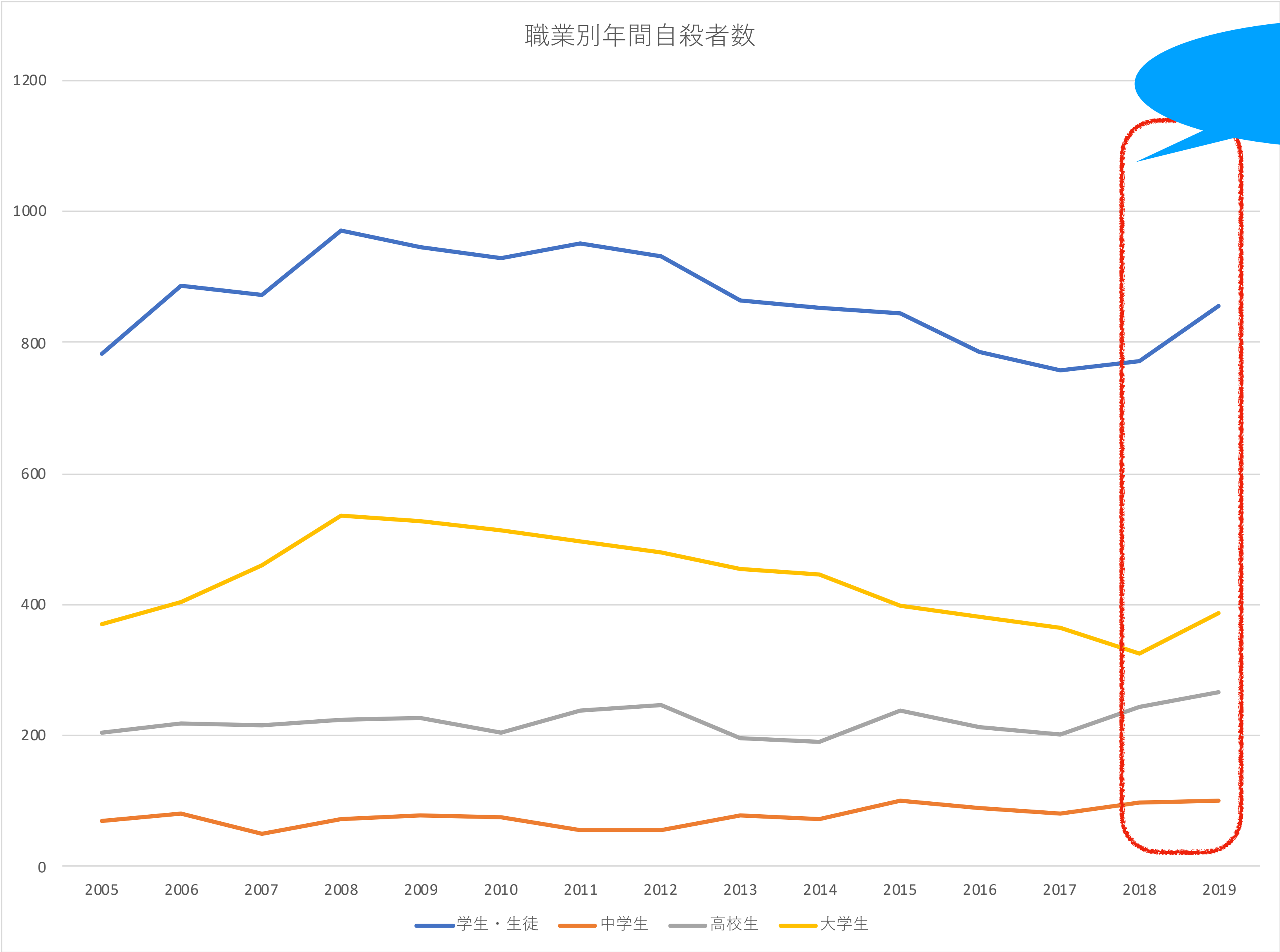


10代の自殺者増加傾向



コロナ禍で急増の自殺 データは何を語るのか - 高橋義明 (中曽根平和研究所)

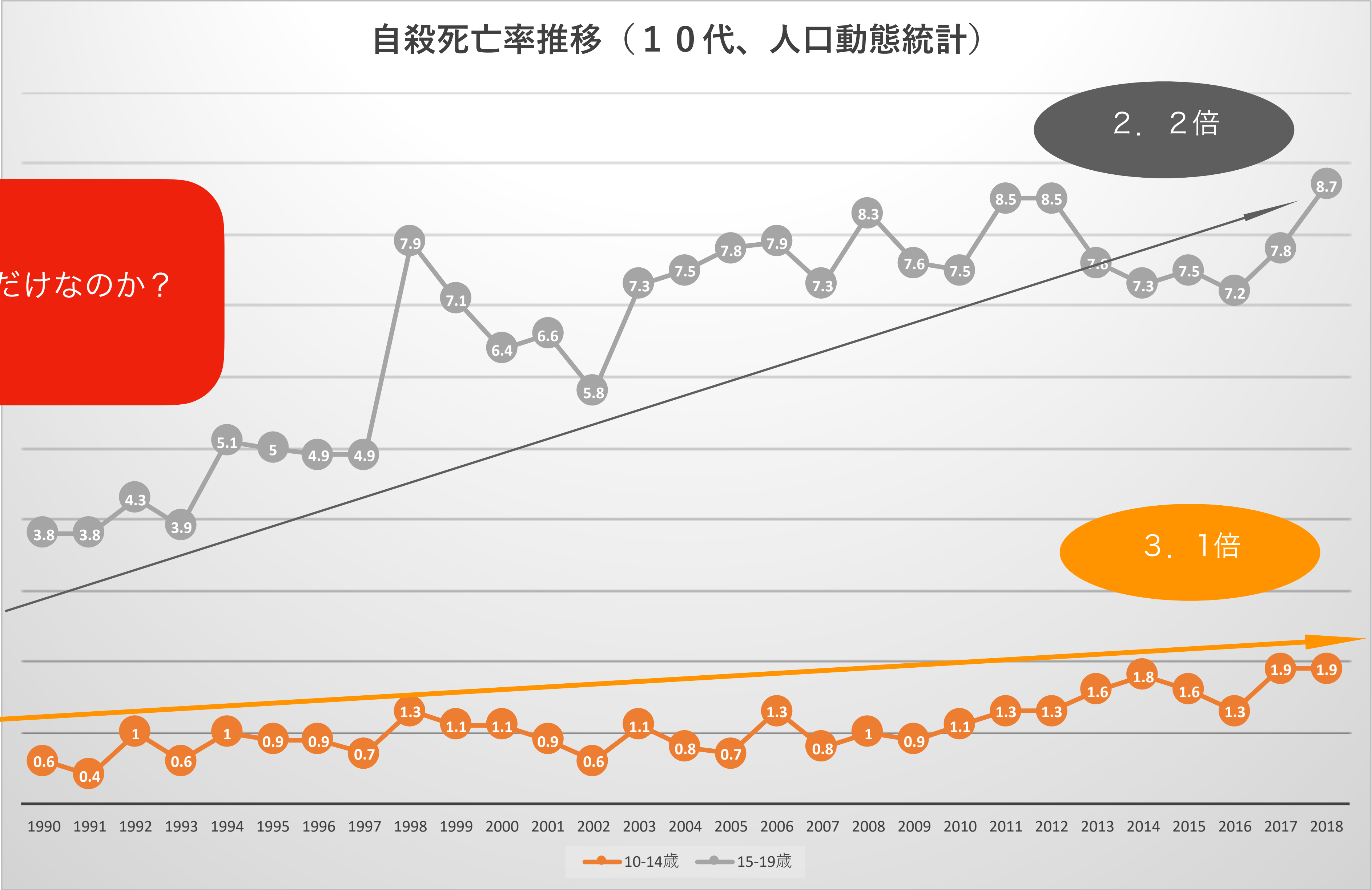
<https://blogos.com/article/495961/>

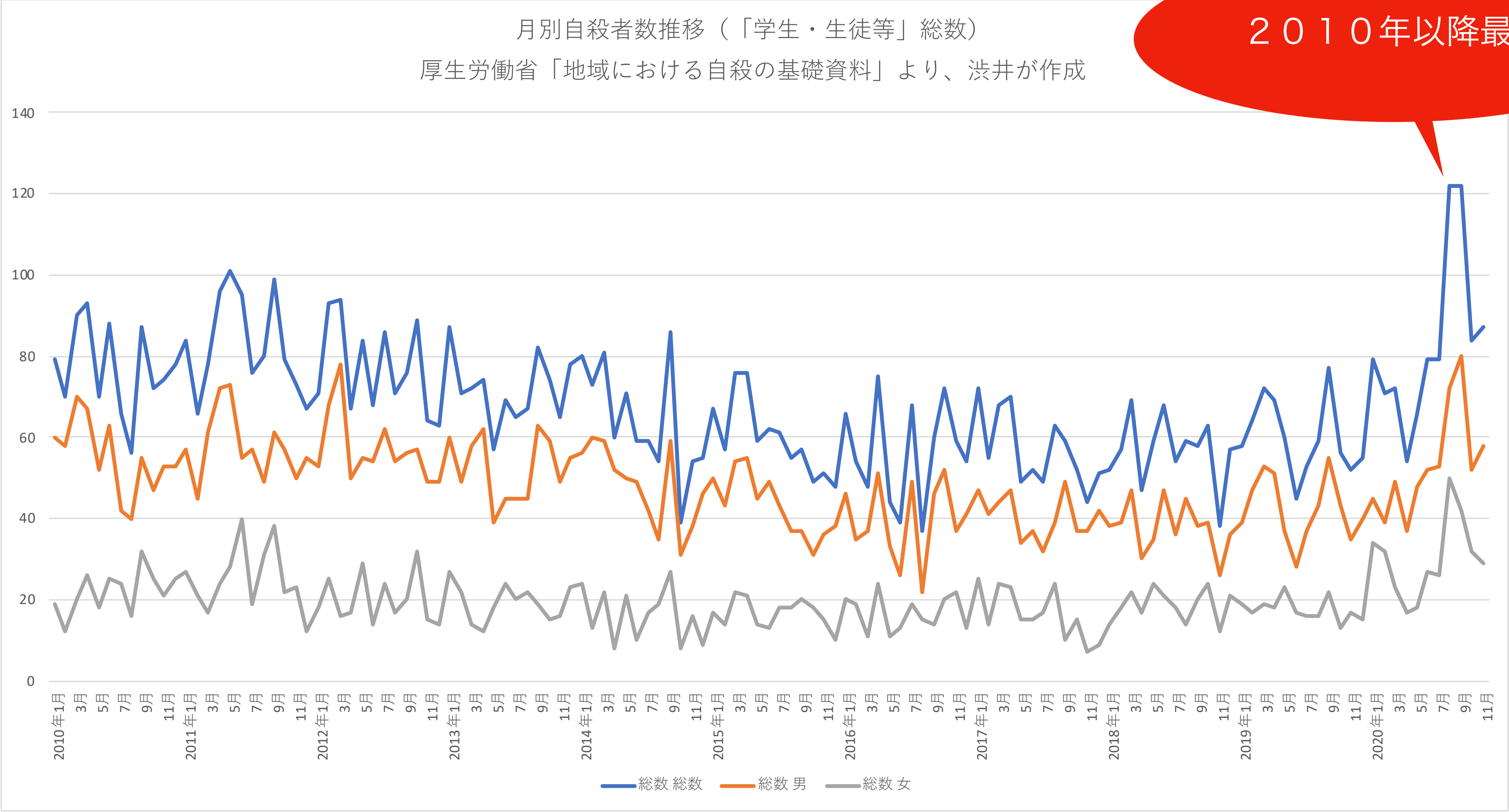


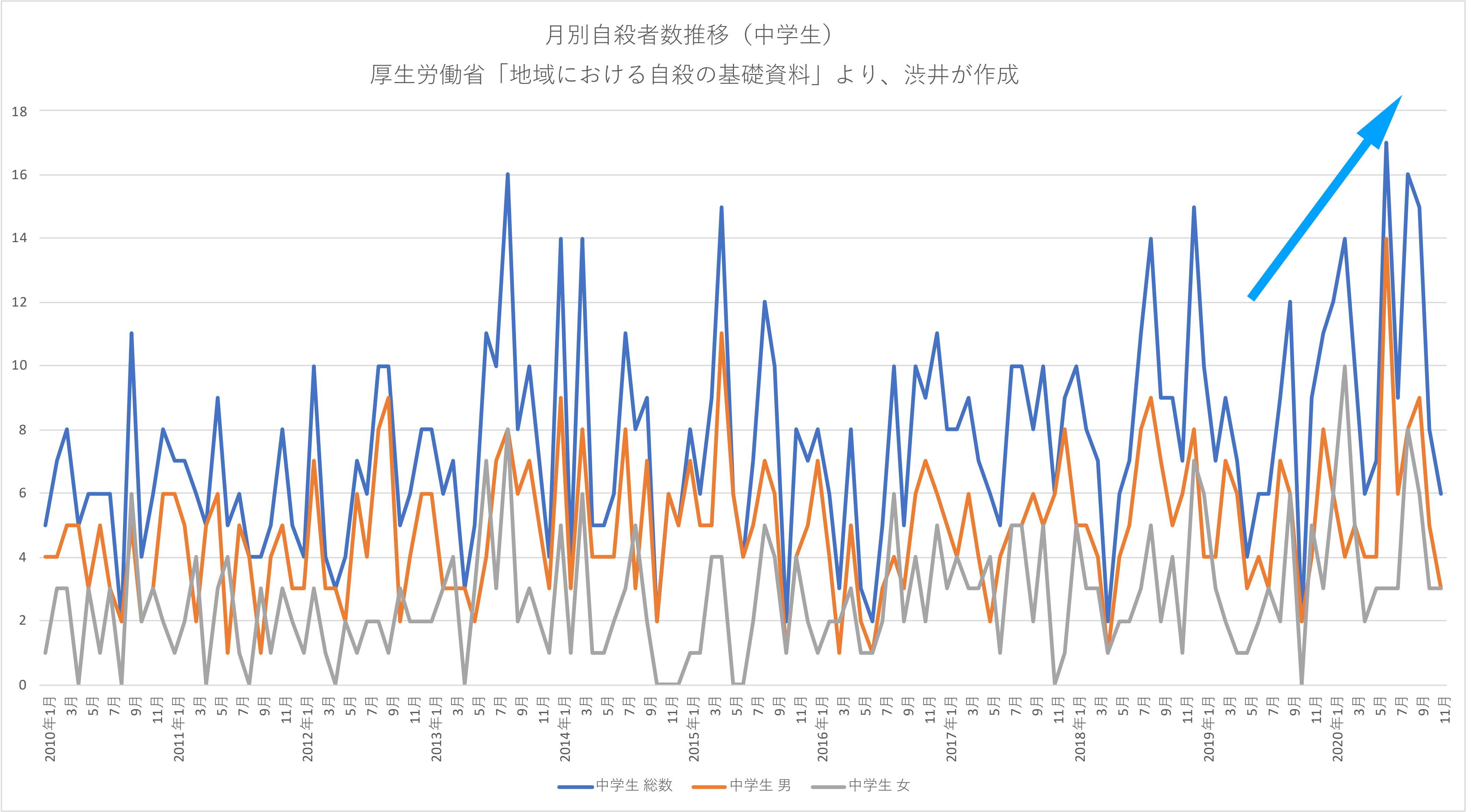
上昇！



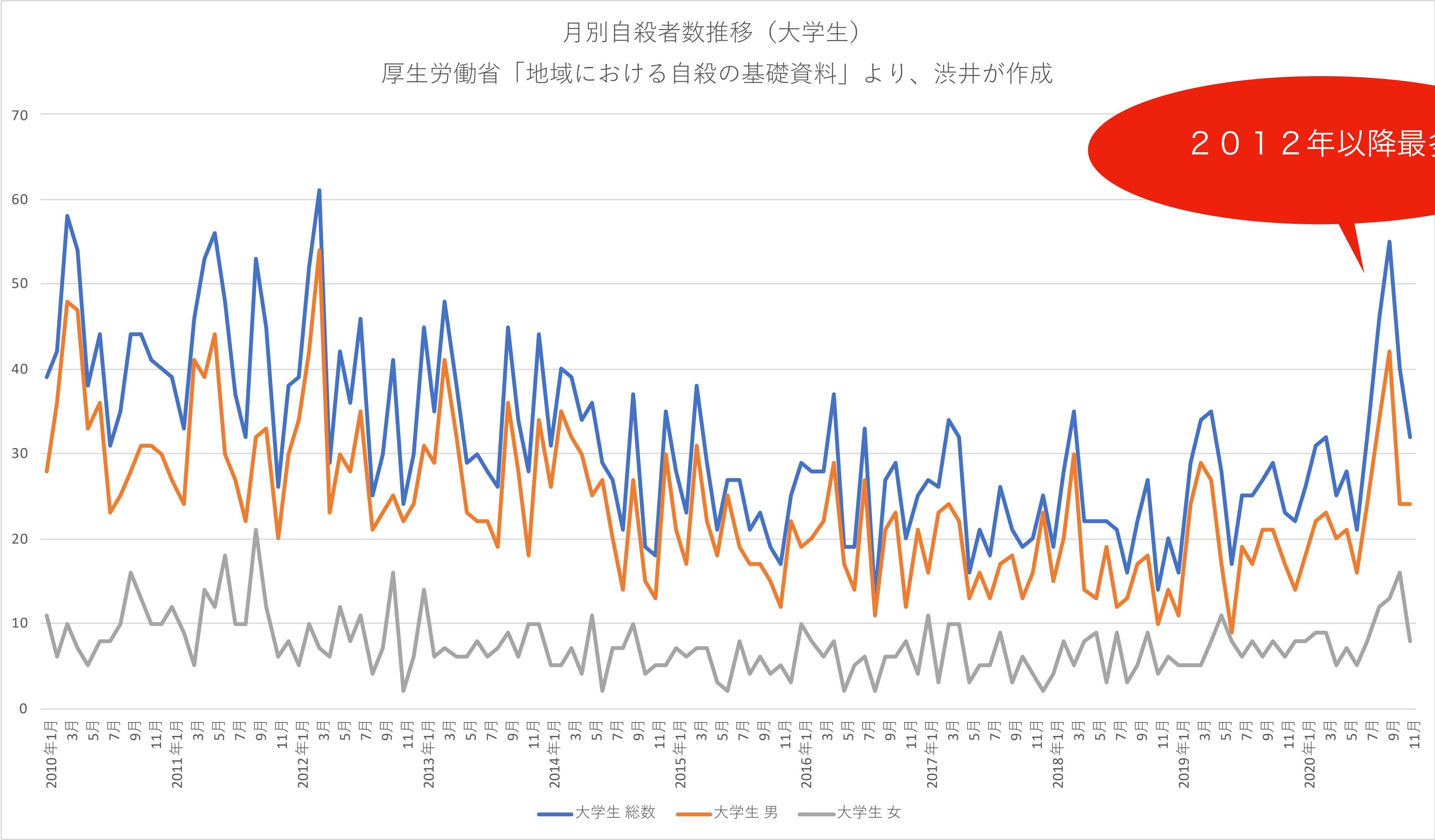
新型コロナ問題だけなのか？



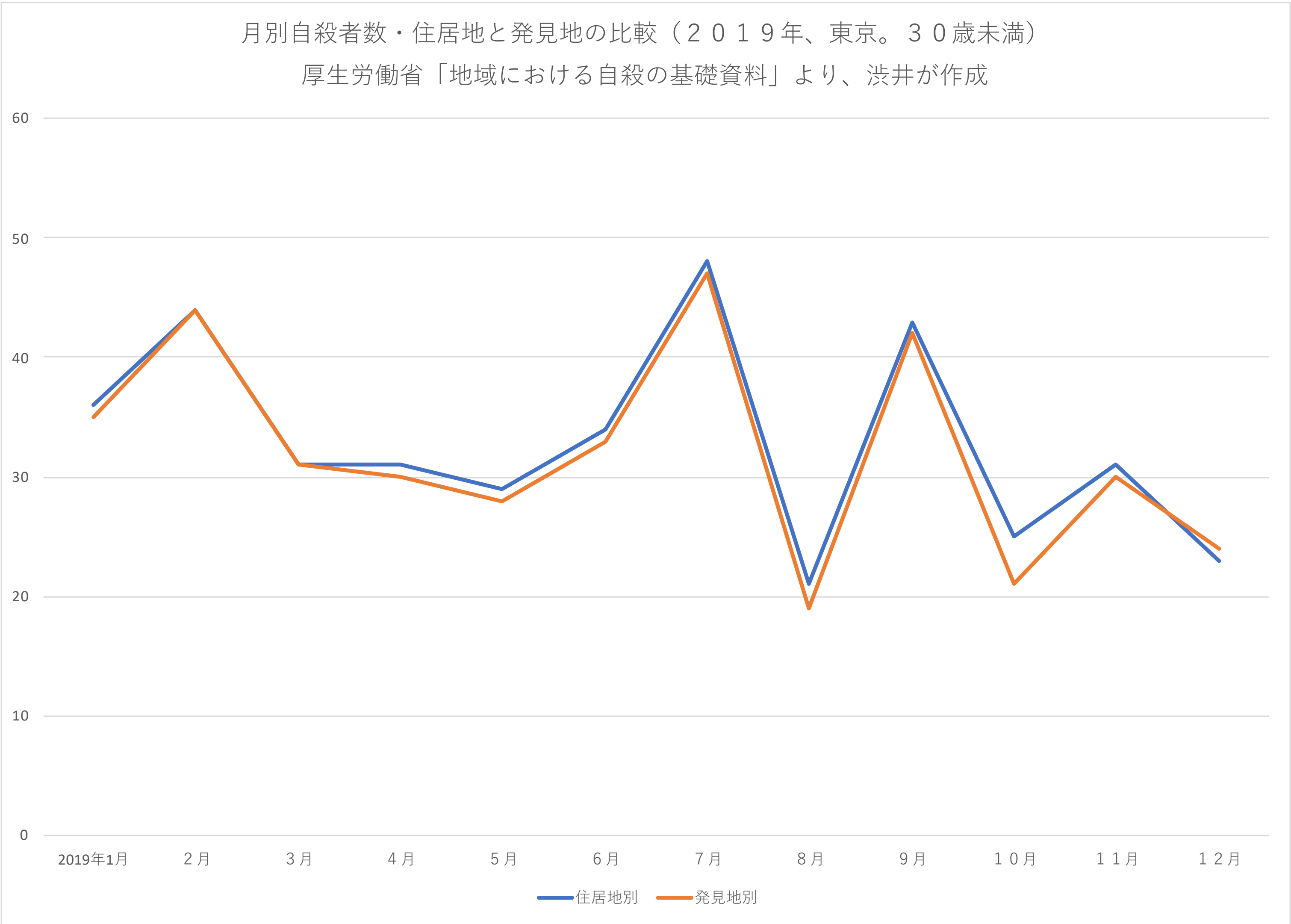




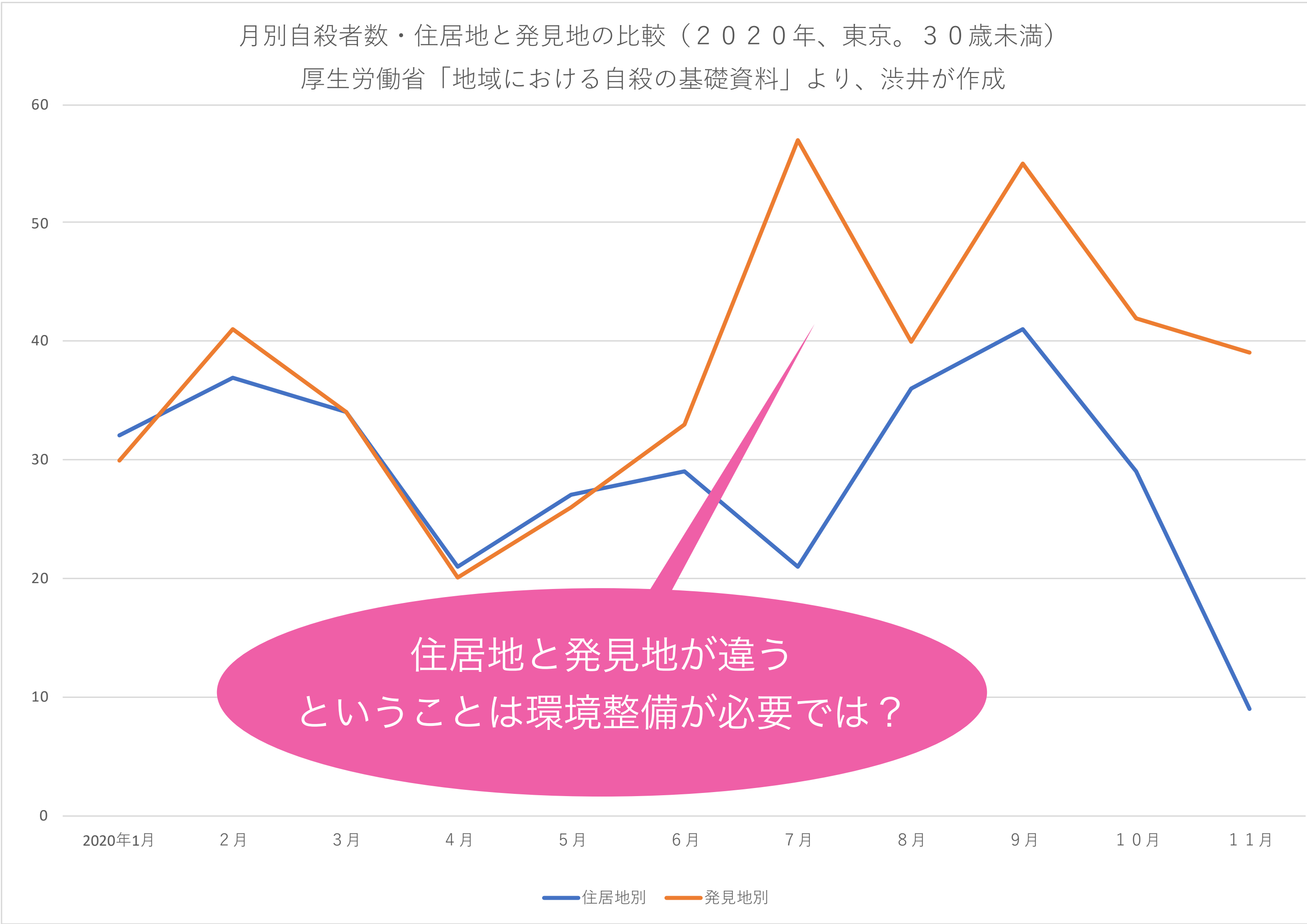




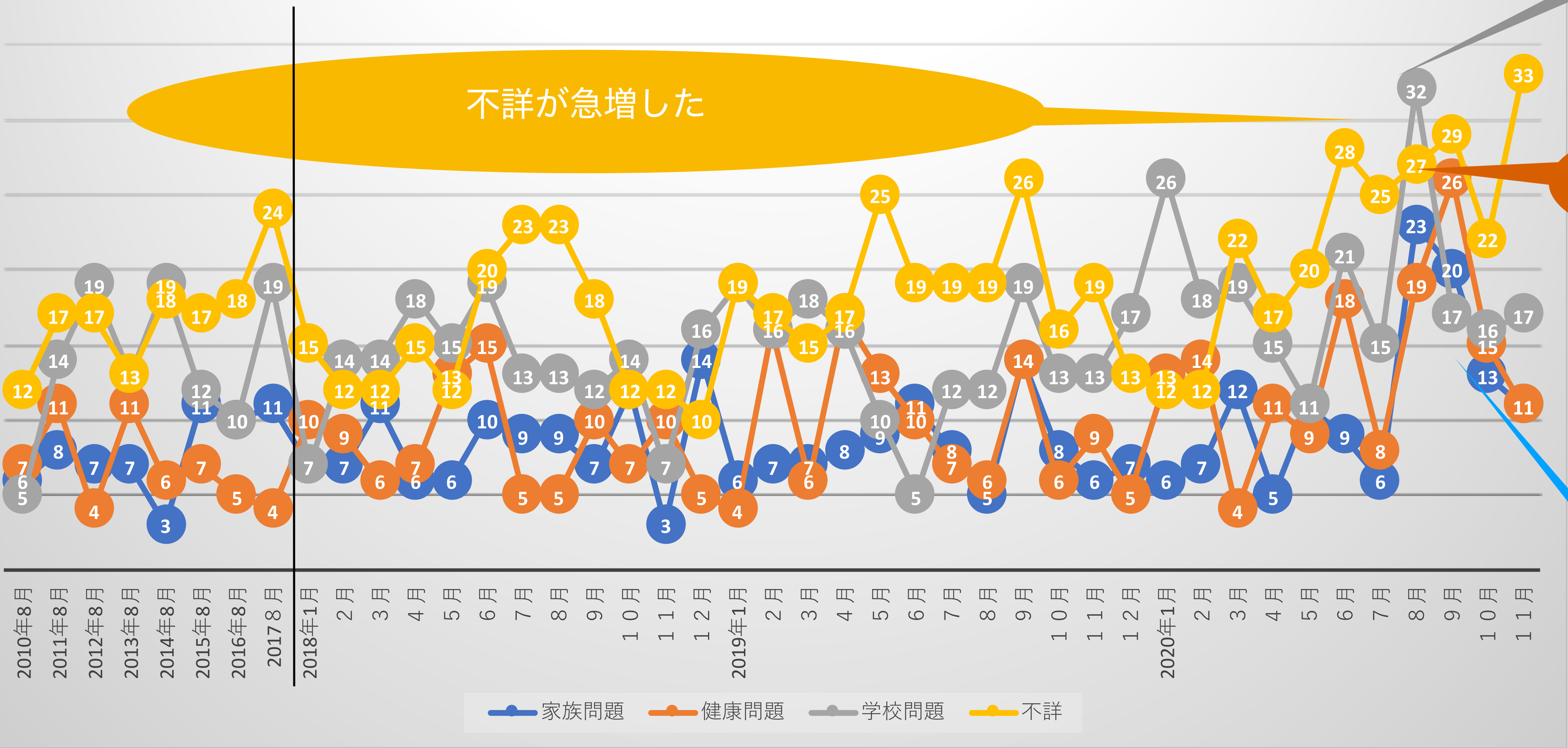
居住地と発見地の差異 2019



居住地と発見地の差異 2020



20歳未満の自殺者の「原因・動機」の推移



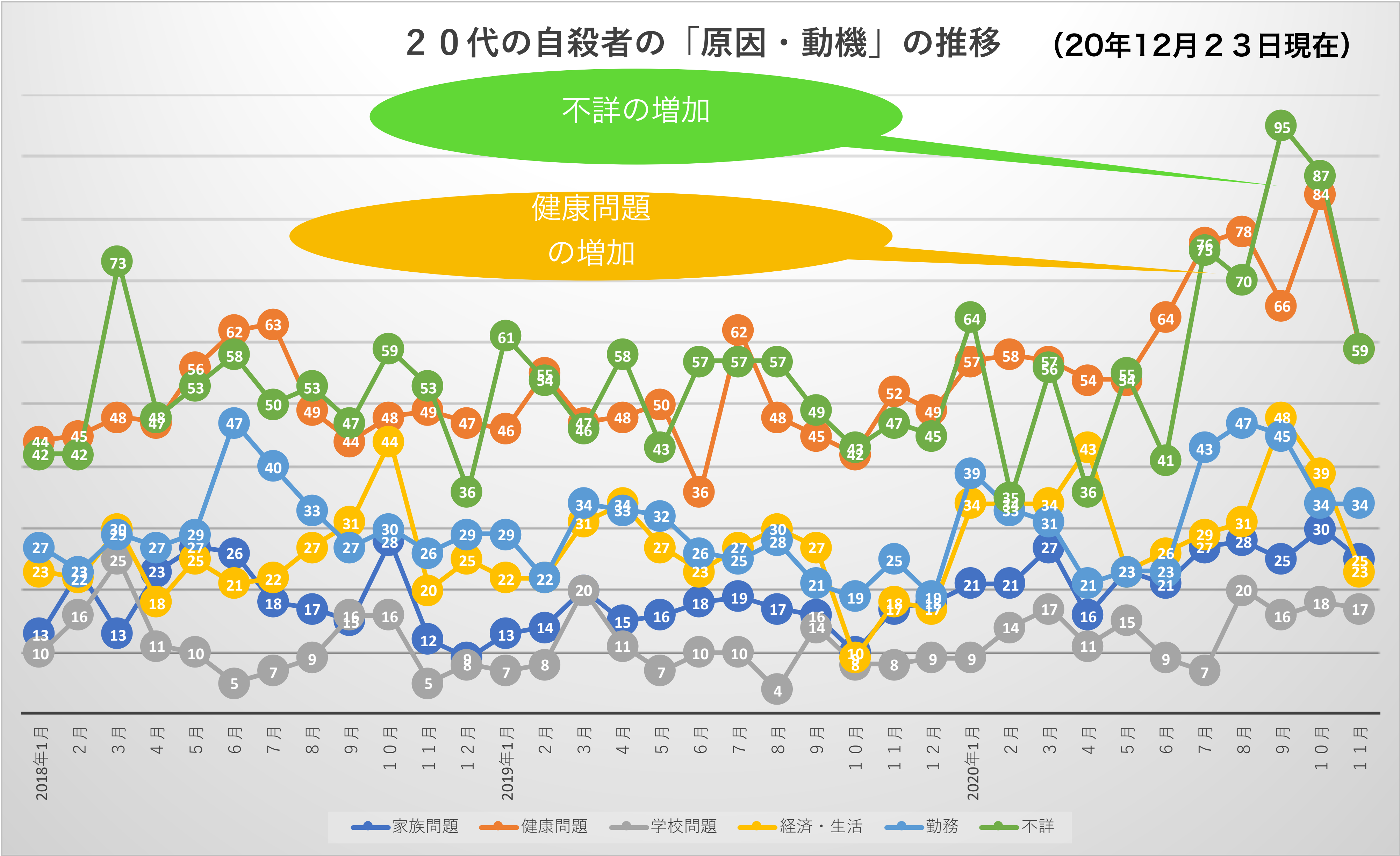
取材から見てくる学校問題

学校内のハラスメント（立場利用の性的な問題を含む）

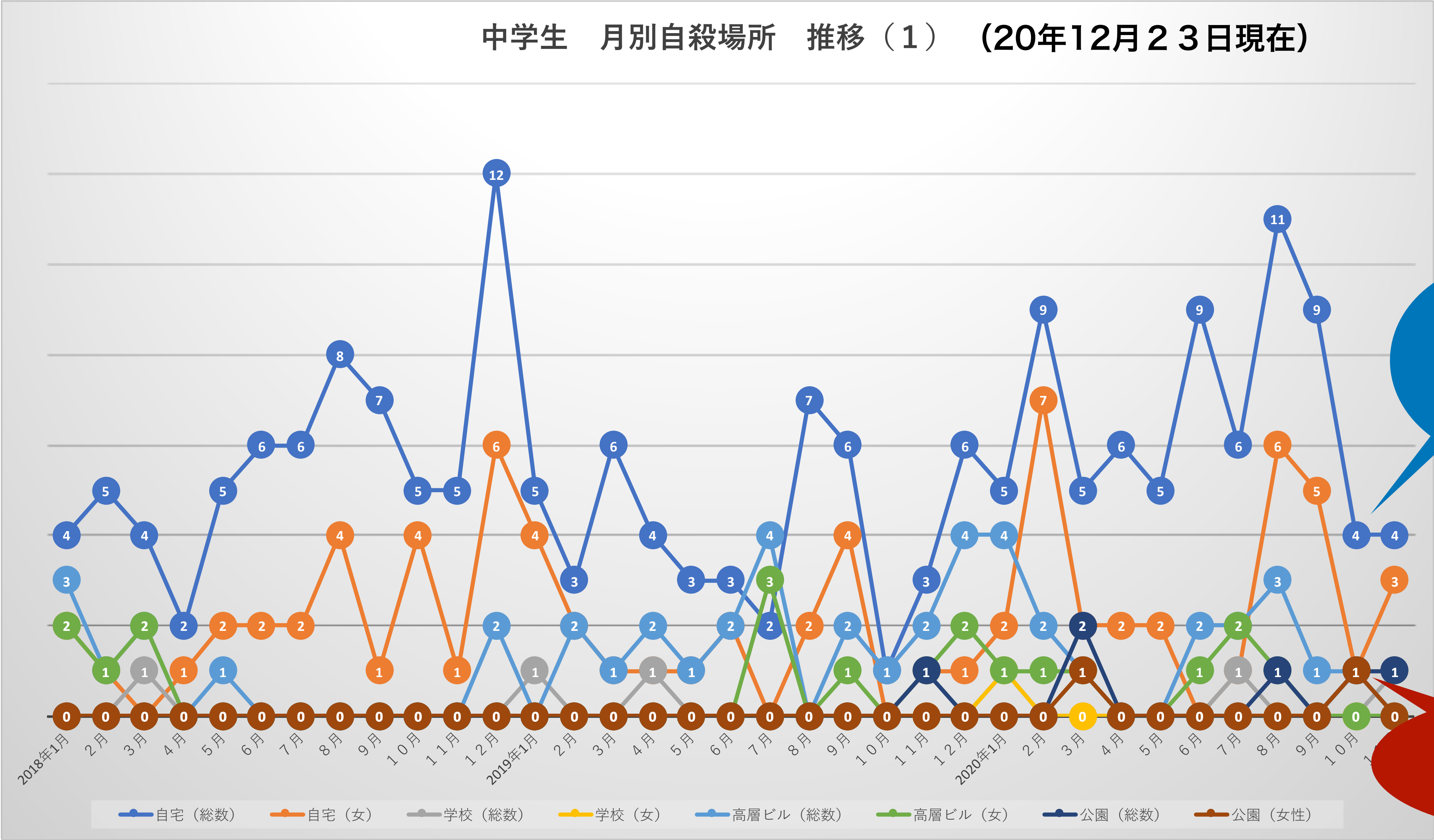
教師の不適切指導（特に、暴力を伴わない指導）

理不尽な校則、部則

いじめ問題への対応（調査委員会設置をめぐって）

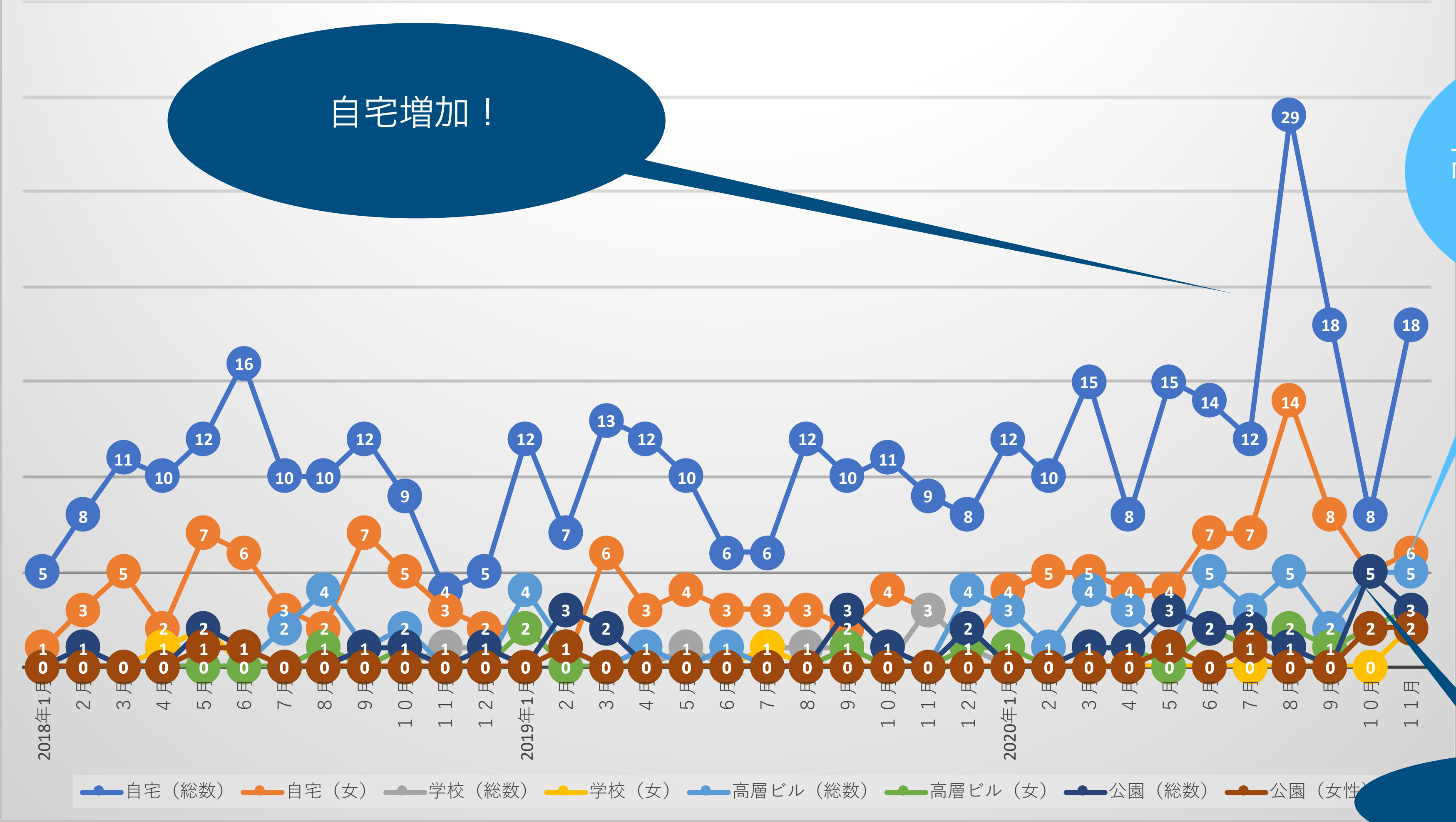


自殺の場所



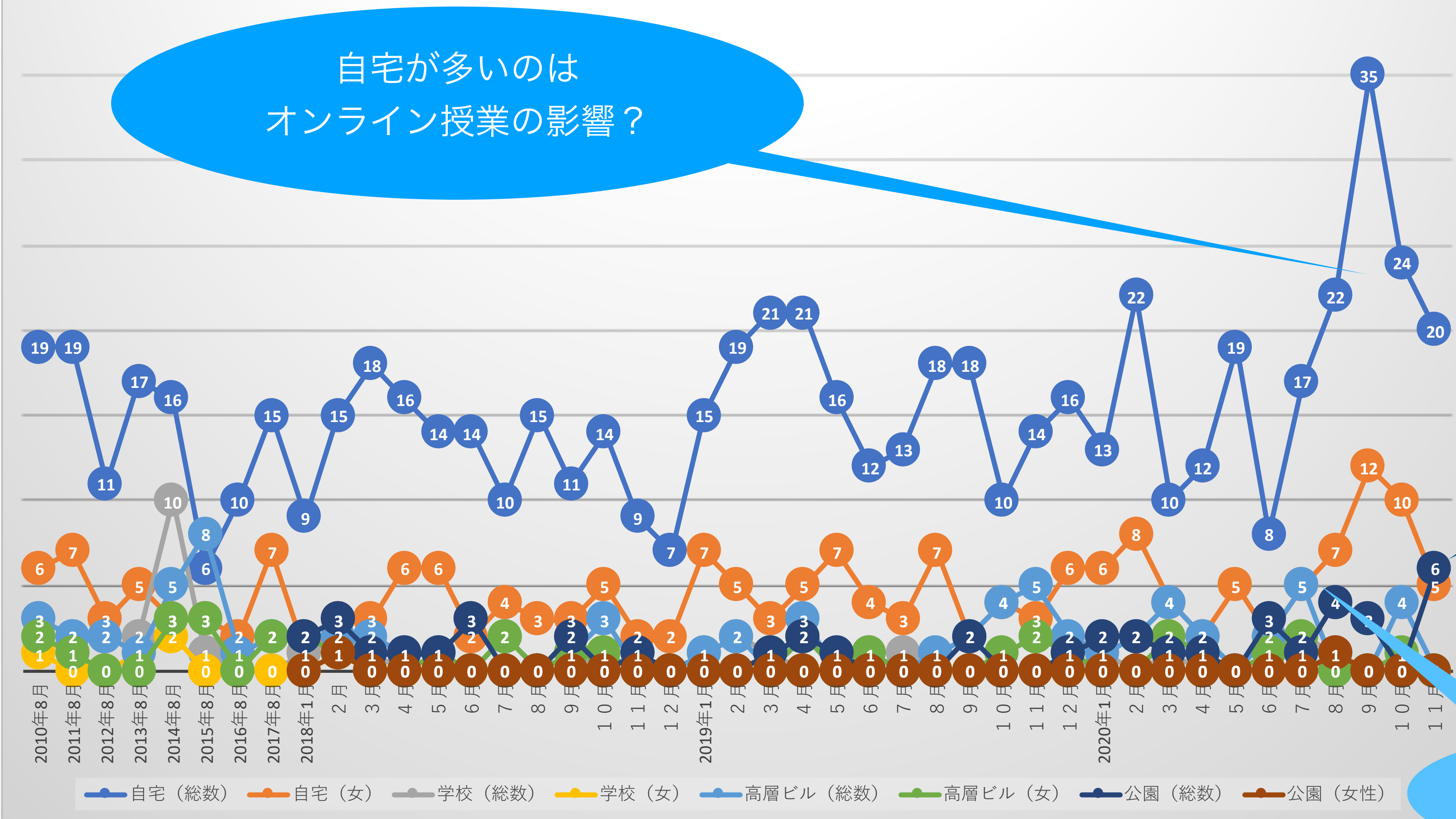
自殺の場所

高校生 月別自殺場所 推移（1）（20年12月23日現在）

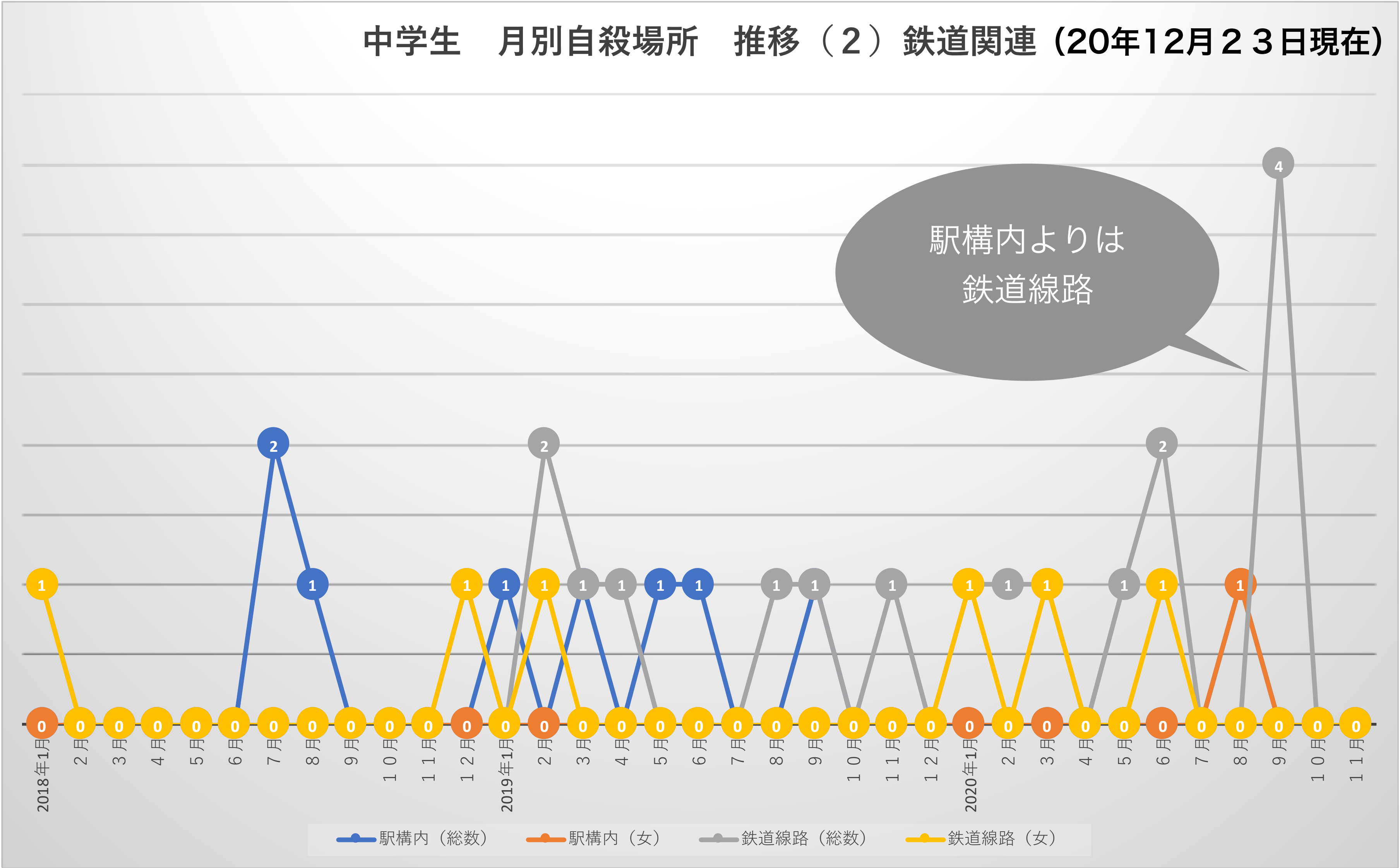


自殺の場所

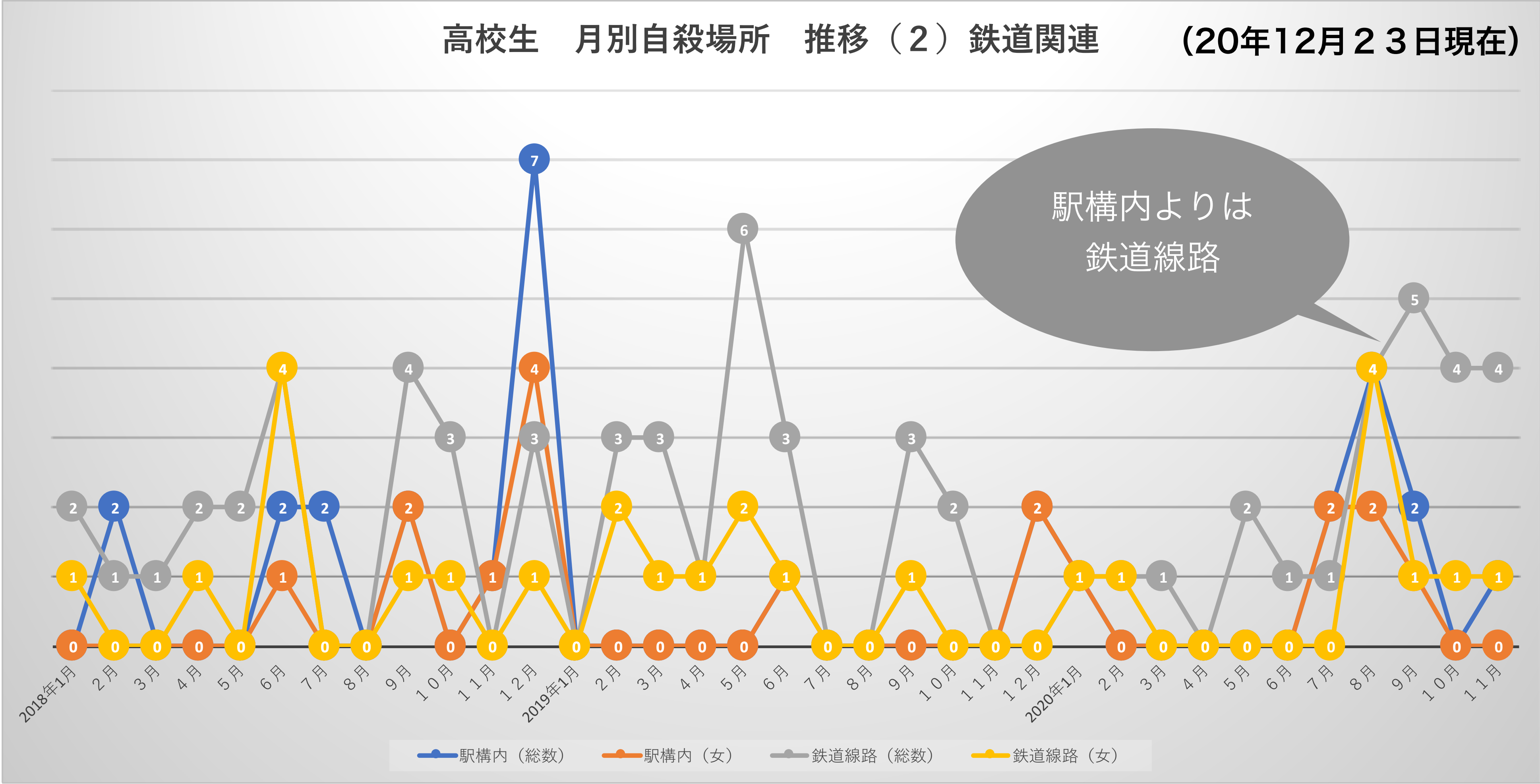
大学生 月別自殺場所 推移（1）（20年12月23日現在）



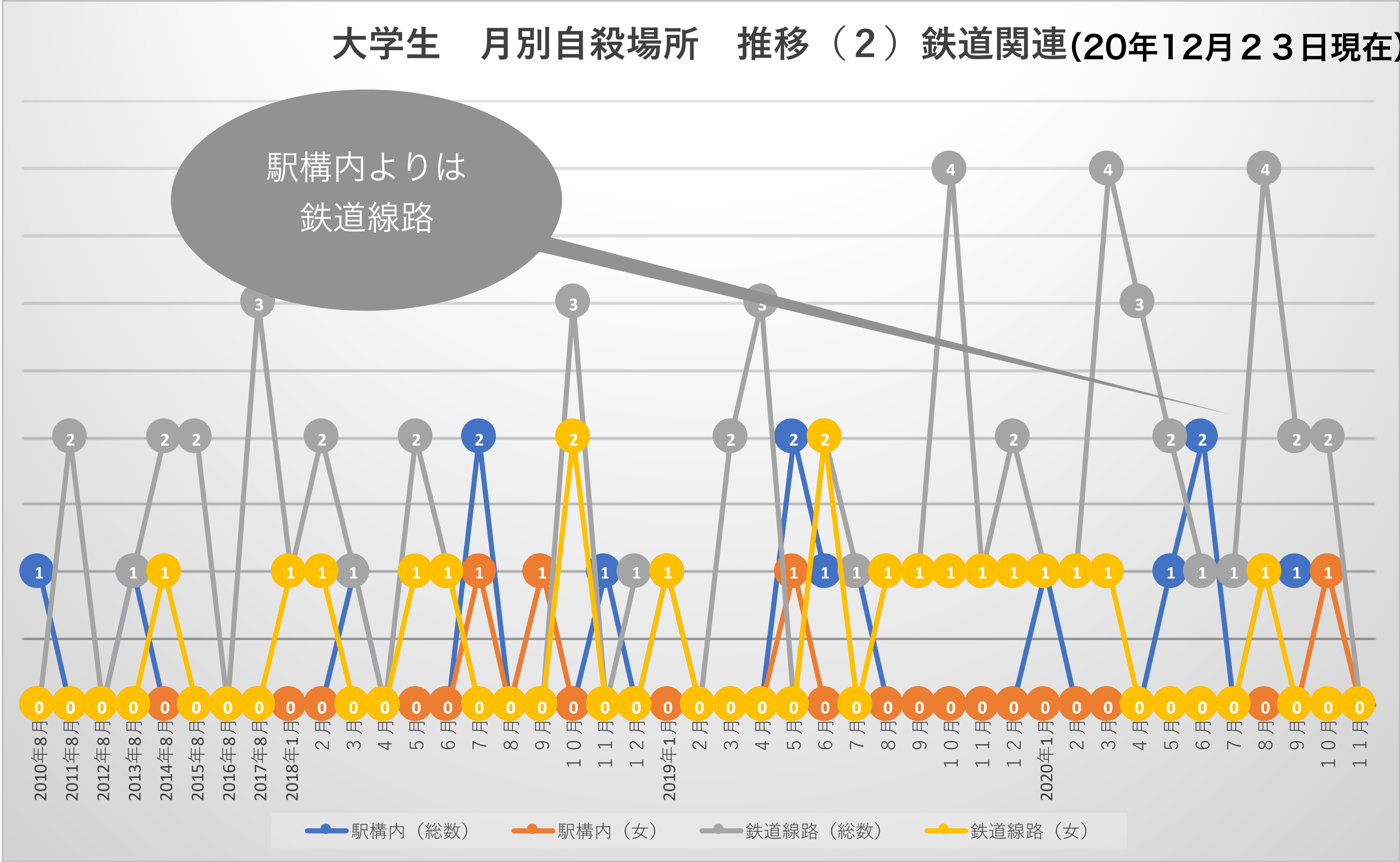
自殺の場所

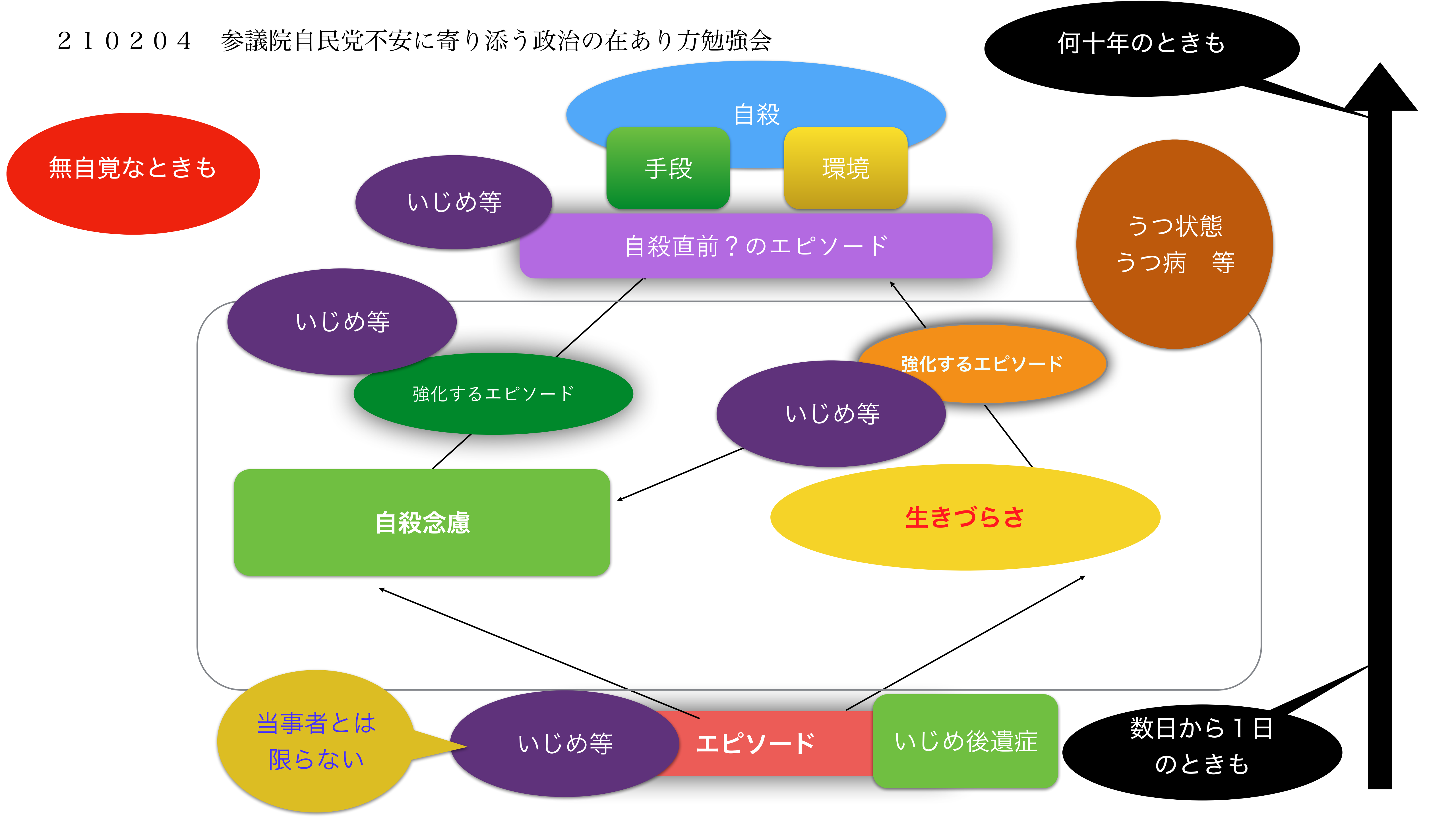


自殺の場所



自殺の場所





提言～学校問題に限って～

子ども、若者の自殺の理由を探る＝Child Death Reviewの自殺版を作る＝心理学的剖検の導入
(文科省調査では児童生徒の自殺の理由のうち59.3%が「不明」、2020年11月まとめ)

いじめ対策防止対策推進法の改正 (超党派の勉強会による試案を中心に、2019年に議論された)

「生徒指導提要」(2010年)＝生徒指導の指針＝の更新
(そのために、有識者会議を再設置、将来的には、体罰や暴言を含む不適切な指導を禁止する基本法を整備する)

地位を利用した教師の、児童生徒へのハラスメントを防止する法整備 (刑法：性犯罪に関する刑事法検討会)

いじめや不適切な指導による等後遺症を継続的にケアをする

恋人や友人を含む「遺族」の継続的なケア

「SOSの出し方教育(自殺対策大綱)」とともに、周囲の大人の「SOSの受け取り方教育」を
(「児童生徒の自殺予防に関する調査研究協力者会議」で議論中)

最終的なキーワード

compassion
(共感共苦)

ご清聴ありがとうございました。

フリーライター 渋谷哲也

質問、問い合わせ等は

hampen1017@gmail.com